

アライグマ生息痕跡・出没地点事例集



埼玉県農業技術研究センター
鳥獣害防除担当
(2025年7月作成)

はじめに

農業技術研究センターでは、令和2年から令和6年までの5年間、アライグマ雌成獣の効果的な捕獲技術の開発に取り組みました。その研究の一環でGPS発信器を装着したアライグマの位置情報から、実際にアライグマが出没する地点の現地調査を行いました。現地調査では位置情報データや各種解析結果をもとに、アライグマがねぐらとした場所や活動を行っていた地点、移動していたルート等を重点的に調査し、現地の特徴把握や画像による記録を行いました。

これらをもとにアライグマのねぐらや活動地点、移動ルートなどの出没しやすい環境の特徴をまとめました。さらにアライグマの捕獲にあたっては、事前に出没していた痕跡を確認する必要があるため、その特徴も画像とともに示しています。

また、アライグマの個体密度を低下させるために必要な捕獲方法のあり方や考え方についても記述しましたので、今後のアライグマの密度低減にぜひ役立ててください。

もくじ

第Ⅰ章 効率的な捕獲の考え方	1
第Ⅱ章 アライグマの生息痕跡	3
第Ⅲ章 出没地点事例	6

第1章 効率的な捕獲の考え方

アライグマの捕獲は多くの場合、住宅地に侵入された庭先や農作物被害が生じた畑で行われています。このような家屋侵入や農作物被害の発生地のみで捕獲を行う受動的な対策では個体密度低減のための効率的な捕獲は不可能です。

効率的にアライグマの個体密度を減らすためには、アライグマが活動する環境を積極的に見つけ出して、滞在しやすいポイントで捕獲を進めていく能動的な対策が重要です。

そのためには、アライグマがどこから来るのか、どこで活動しているのかを把握して、効率的に捕獲できる場所を見出すことが必要です。

農業技術研究センターが実施した調査では、捕獲したアライグマにGPS発信器を装着して得られたデータから実際にアライグマの出没する地点を特定し現地調査を行いました。

写真の赤い点はアライグマが出没していた場所を示しています。

GPSデータに基づき11頭のアライグマのねぐらや重点的に活動していた場所、移動経路として使っていた場所を把握することができました。



アライグマを捕獲するためには、けもの道や足跡、爪痕等の痕跡を見つけ出すことがとても重要です。痕跡を確認し、アライグマの生息しやすい環境を把握した上で箱わなを仕掛けることが必要です。

そのためにGPS調査で分かったアライグマが実際に滞在していた環境を集計・分類して下表にまとめました。

箱わなを仕掛ける捕獲地点にアライグマの生息しやすい環境要素が多いほど捕獲に成功する確率が高まる可能性があります。第II章はこの表に示している環境要素の特徴を分類ごとに解説しています。

また、この表を元に「アライグマ捕獲地点評価基準」を作成したので、箱わなを設置する場所の選定の際に御活用ください。

表 アライグマ生息地点の環境要素・特徴

環境要素		生息地点付近の環境要素の特徴・条件
大分類	小分類	
水環境	用水路	用水路内に泥が堆積,生物が生息が見られる
	小川・小流（せせらぎ）	山林や丘陵地帯の地域で水が集まった水流
	河川	移動経路となる河川
	湖沼・調節池	湖沼や調節池など抽水植物や水生生物が存在する環境
建屋	廃屋・空き家	アライグマが侵入する可能性がある廃屋や空き家
	畜舎・廃畜舎	畜舎や使われていない廃畜舎
	屋敷林のある建屋	屋敷林や庭木がある建屋
	物置・納屋	侵入しやすい隙間が多い物置や納屋
遊休地	ヨシ、オギ、ススキ群落	水田が遊休地化したヨシ群落やオギ群落、ススキ群落
	雑草群落化した盛り土	雑草に覆われた盛り土
	荒地地・藪	畑が遊休地化し、雑草が繁茂した藪
樹林地	雑木林	丘陵地や公園等の敷地にある雑木林
	竹林	放置された竹林
	河畔林	ヤナギ等の河畔林
耕地	畑	用水路や林に面した畑
	田	用水路や林に面した水田
その他	産業中間処理施設	産業廃棄物等を集積した中間処理施設
	廃工場・廃車集積場	廃工場や廃車を集積した施設

第II章 アライグマの生息痕跡

1 けもの道

アライグマを捕獲するために最低限確認すべき環境要素がけもの道です。けもの道の近くに箱わなを仕掛けることが捕獲のセオリーです。捕獲地点の付近にけもの道が確認できなければ捕獲できる可能性は低くなります。

けもの道は動物が藪などの茂みを歩くことによってできた道です。繰り返し歩いた結果、踏み跡が道になります。いろいろな動物がけもの道を共有して使っています。アライグマの場合は水のある環境からけもの道が見つかることが多いです。

箱わなは、けもの道の近くに設置しましょう。



2 足跡

アライグマの足跡は二つ並行して残る特徴があります。水田や泥の堆積した用水路や耕うんしたばかりの畑ではアライグマの足跡がよく確認できます。泥に残った足跡は5本指の手形が残る場合が多いので確認は容易です。

参考としてハクビシンやタヌキの足跡も例示しましたので現場での確認に御活用ください。



3 爪痕

アライグマの爪痕は5本の線が斜めに付きます。人が立ち入らない神社・仏閣や物置、集会施設、空き家など多くの建屋で爪痕が確認できます。建屋の木材の柱では爪痕を見ることができます。ネコも木材の柱や壁に傷跡を残しますが、傷跡は人の膝の高さにとどまります。一方、アライグマの場合は天井付近まで登ることができるので、人の目線より高い位置にまで爪痕を確認することができます。ただし、爪痕は古いものもあるので注意が必要です。

建物の天井に穴が開いている場合はアライグマが繰り返し出入りするため、爪痕に加えて泥汚れが痕跡として残ります。神社仏閣や集会施設ではこのような汚れの有無を確認します。水田地帯では繰り返し通行している用水路などのコンクリート壁面に爪痕が残ることもあります。



第三章 出没地点事例

1 水環境

(1) 用水路

水田地帯に生息するアライグマは用水路を移動経路として利用しています。コンクリート三面張り水路は泥が堆積していて、特に生物の存在を感じさせる環境だと利用することが多く、このような用水路では堆積した土砂にアライグマの足跡を確認できることがあります。

また、用水路が雑草に覆われた状態であると隠密に活動できるため、使用する頻度が高まると考えられます。



コンクリート水路



コンクリート水路内に堆積した泥と足跡

植物やタニシなどの水生生物が豊富な素掘りの水路は、もっともアライグマが好む水路です。



素掘り土水路



生き物が豊富な素掘り水路

両岸がコンクリートに覆われている二面張り用水路も、土砂が堆積して、雑草や抽水植物（水際で繁殖する水生植物）が両岸を覆い、餌となる生物が豊富な環境になります。アライグマはこのような水路を移動ルートとしても採食活動の場所としても活用しています。

ただし、増水時のように流れが速い時や生物があまり生息していない用水路はアライグマはほとんど使いません。水路であればどこでも利用するとは限らないことに留意しておく必要があります。



(2) 小川・小流（せせらぎ）

山林や丘陵地帯で水が集まった小流は、枯れ葉が堆積し、餌となる生物が比較的多く、通行の妨げになるものが少ないため、アライグマにとって利用しやすい道になっています。



(3) 河川

アライグマは、抽水植物が群生する岸や浅瀬（砂州）で活動し、これらの場所で足跡を確認できることがあります。主に浅瀬を伝って移動し、時には川幅が30～40mあっても渡河することがあります。

また、河川の岸の急斜面を積極的に活動場所として利用することがあり、岩崖のような人が立ち入れない地形を好んで活動する個体もいます。



(4) 湖沼・調節池

湖沼や調節池は水田地帯や河川沿いに多い環境要素です。アライグマは湖沼の取水口の泥が堆積した浅瀬などで頻繁に活動しています。

水田地帯にある調節池や調整池もアライグマのねぐらや活動拠点となります。調節池にはヨシ群落等や抽水植物が豊富にあり、アライグマが好む環境です。水田地帯の集落近くにこのような環境があればアライグマが出没する可能性は極めて高くなります。



湖沼

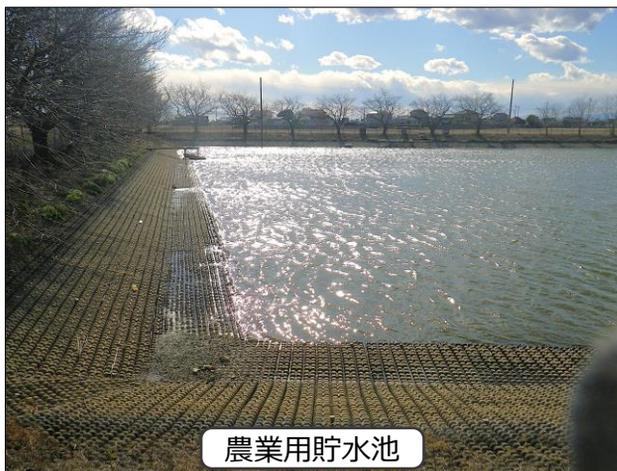


調節池

公園内にある沼や池もアライグマが出没します。一方、農業用の貯水池は年間を通じて水が豊富にある環境ですが、コンクリートで作られた人工的なプールのような環境のため植生や生き物が少ない環境です。アライグマは生物のいない水場環境で活動することはほとんどありません。



県内の水上公園内の湖沼



農業用貯水池

2 建屋

(1) 廃屋・空き家

河川や用水路、雑木林などに隣接する廃屋や空き家などの建屋がアライグマのねぐらとして使われます。中でも老朽化した廃屋は動物が侵入できる隙間が多く、ねぐらに適しています。

一見隙間がないように見えても軒下等に侵入可能な穴が開いていたり、小さな隙間をアライグマが破壊して侵入することがあります。管理されていない神社や仏閣も侵入されることがあり、雑木林や藪に囲まれ、近くに水場があるなどのアライグマが出没しやすい環境が備わると、その確率が高まります。

アライグマが生息している場合は柱や壁に爪痕などの痕跡が残されていることが多いので発見に努めることが重要です。



(2) 畜舎・廃畜舎

畜舎や廃畜舎は、河川沿いや水田地帯に点在しているケースが多くあります。また、周辺には雑木林や藪が多く、畜舎内はねぐらとして好適なため、定住地になりやすい環境です。畜舎内の穀物の飼料を好んで食べるため、家畜の餌に依存するアライグマもいます。



(3) 庭木や屋敷林のある家屋

大きな屋敷林を持つ住宅や手入れが行きわたらない庭木と藪・雑木がある家屋に、アライグマは住み着きます。また、付近に用水路等の移動ルートがあると使用される頻度が高まり、ねぐらや移動ルートの中継地点となることもあります。



(4) 物置小屋・納屋

物置、納屋は人が普段立ち入らないため、ねぐらになりやすいです。特に資材が散乱しているような物置小屋や納屋はアライグマが住み着きやすい空間です。さらに隙間があるとアライグマの侵入が容易となり使われやすくなります。

付近に雑木林や水路等がある場合は一層の注意が必要です。



3 遊休地

(1) ヨシ・オギ・ススキ群落

遊休地化した水田は、ヨシやオギ・ススキなどが占有した群落となり、アライグマのねぐらや活動場所となります。アライグマは水田地帯に点在するヨシ群落等を転々と移動し、集落内のねぐらとなっている建屋からは用水路を通過してヨシ群落に移動し活動します。

また、山林や丘陵地帯、河川沿いに見られるヨシ群落等も生息場所となります。



(2) 雑草群落化した盛り土

水田地帯にある盛り土はやがて雑草群落化し、最終的にはクズで覆われアライグマの生息しやすい環境になります。さらに移動経路となる用水路に面していると使用頻度は高まり、ヨシ・オギ・ススキ群落と同様に用水路を通じて盛り土の間を転々と移動することがあります。このような雑草に覆われた盛り土の周辺を良く観察するとけもの道が確認できることがあります。



(3) 荒地・藪

遊休地化した畑は、イネ科を中心とした雑草やササ群落に覆われて藪になります。藪はねぐらや活動場所となるため、藪の周辺でアライグマが出入りした痕跡を見つけられることがあります。

アライグマが出入りしている痕跡が確認できれば捕獲の可能性が高まります。



4 樹林地

(1) 雑木林

河川や用水路に面した雑木林はアライグマの活動場所となります。調査では学校敷地内の雑木林で活動している個体もいました。丘陵地帯の雑木林も、水場が多いためアライグマの格好の生息場所となります。アライグマは、やや傾斜のある地形で藪や雑木林のある環境を好みます。また、移動時は雑木林や藪などの身を隠せる環境を選択する傾向があります。



(2) 竹林

放任され人が立ち入れないような密度で繁茂した竹林は、アライグマが容易に身を隠すことができるために活動場所になります。



(3) 河畔林

河畔林は河川周辺に繁茂する樹林で、水辺を好むヤナギ類等で構成されています。GPS調査個体は河川や湖沼周辺のヤナギの下で活動することが多く、春から夏にかけて温暖な時期は樹上で過ごしていたと考えられます。

アライグマは、樹冠が横に広がり、樹上で活動しやすい樹形を滞在場所として好む傾向があります。



5 耕地

(1) 畑

河川や用水路、雑木林や遊休地の近くの畑は、アライグマが出没しやすく、作物被害の可能性が高いので注意が必要です。アライグマが出没した畑にはアライグマ特有の側体歩という足跡が残ります。



(2) 田

アライグマは水田地帯では水田と用水路で活動しています。主に用水路で活動しますが、7～8月にかけては水田で活動することが多くなります。また、近くに遊休地などのねぐらとなる環境があると水田で活動する頻度が高まります。中干しで落水した水田はアライグマの足跡を確認しやすいので、畦畔から観察しましょう。



6 その他

(1) 産業廃棄物集積所

アライグマは産業廃棄物を集積する中間処理施設の敷地内に滞在することがあります。このような場所では廃材などが集積されており、アライグマがねぐらに使える空間が豊富にあります。高いフェンスに囲まれていることが多く、人が容易に立ち入れない環境であることも要因となっています。



(2) 廃工場や廃車集積所

アライグマは廃工場や廃車集積所をねぐらとすることがあります。廃工場の建屋や廃車、野積みにされたコンクリート製品等にはねぐらにできる空間があるため、付近にこのような施設がある場合は注意が必要です。

GPS発信器装着個体には、調査期間を通じて廃工場や廃車集積所をねぐらとして使っている個体もいました。ただし、ここでもアライグマが使う環境としては用水路や雑木林等が付近にあることが欠かせない要件になっています。



図、表、写真等を転載される場合には当センターの了解が必要です。希望される場合は下記まで御連絡ください

企画担当 電話：048-536-0312
FAX：048-536-0315